



ふる里山田同郷の会

同郷192人が集い交流 大浦さんさ華やかに舞う

東京近郊に暮らす本町出身者などが集い、交流を深め合う「ふる里山田同郷の会」が6月15日、東京都文京区の東京ガーデンパレスを会場に開かれました。今年で28回目となる同会には、192人が出席。町からも佐藤信逸町長をはじめ職員5人、町議会から昆暉雄議長をはじめ議員3人、山田町商工会から阿部幸榮会長が参加しました。

総会では、町の現在の状況を町水産商工課の甲斐谷



小川俣弘会長

芳一課長がスライドを使いながら説明。漁港や船越小学校の再建状況、復興工事の進捗など、震災から3年が経過し変化を見せ始めた町の姿を、参加者は真剣なまなざしで見つめていました。引き続き、岩手大学三陸復興推進機構特任研究員の船戸義和さんから、本町を支援する学生らが手掛ける「食のこだわりマップ」の作成や、地域の人の交流を主体とした観光事業についての活動報告が行われ、新たな取り組みに大きな関心が寄せられていました。その後、平成25年度の事業報告や本年度の事業計画が審議され、原案どおり承認されました。

総会終了後は「懇親交流の集い」。はじめに小川俣弘会長が「大勢の方に集まっていたいただき、感動しています。古里・山田の物を食べる・使う・利用することが、私たちにできる一番の支

援。ここに集まる皆さんが、関東の情報発信基地となって山田を応援していきましょう」とあいさつしました。続いて、佐藤信逸町長が町の現状などを交えながらあいさつ。「東日本大震災においては多くの支援を頂いた。特に同郷の会の皆さまの『山田町を応援していくんだ』という言葉を非常にありがたく、そして心強く感じています」と述べました。

今回はソチパラリンピック・スキージャンプで8位入賞を果たした本町出身の阿部友里香さん（大東文化大1年）も参加。パラリンピックの成果報告が行われ、会場は郷土の選手の活躍に盛り上がりつつありました。

待ちに待った懇談の時間は、昆暉雄議長の乾杯の音頭でスタート。参加した皆さんはほろ酔い気分で思い出話に花を咲かせていました。

アトラクションでは、今回初参加となる大浦さんさ踊りが威勢よくもしなやかな踊りを披露。若いころに同踊りを踊ったという大浦地区出身者も一緒に、会場は祭り一色に染め上がりました。このほか、特産品が当たる抽選会も行われ、参加した皆さんは古里を思い出し、懐かしい面々との再会に満足した様子でした。



①



②



④



③

①物産販売では売り切れになってしまう品物も／②会場を祭り一色にした大浦さんさ踊り／③懐かしい友人たちと乾杯！／④司会者の軽妙なトークで盛り上がった抽選会／⑤阿部友里香さんによるソチパラリンピックの報告／⑥普段なかなか会えない人との会話も弾みます



⑤



④

参加者からひとこと

なんといっても八幡宮のお神輿と八幡鹿舞が忘れられない思い出です。山田には穏やかな山田湾をはじめとした素晴らしい景色があります。情報発信をして、日本中から観光客が集まるようになればと思います。



井上 陽子さん (71歳)
〔八幡町出身〕

去年参加したときは境田虎舞が見れて懐かしく、山田に住んでいた時のことを思い出しました。ぜひ山田線を復活させて、足を伸ばせるところを整備してもらい、古里に帰りやすくしてほしいと思います。



阿部 忠則さん (60歳)
〔境田町出身〕



八木 正昭さん (61歳)
〔山田出身〕

高校まで山田に居り、山田祭では大杉神社の旗持ちをしていました。町内には更地のままになっている場所も多くあると聞きます。復興事業で整備をして、しっかりとした町を作ってもらいたいです。



山崎 亮さん (68歳)
〔大浦出身〕

山田に住んでいた当時はテレビゲームなどはなく、山や海で遊び育ちました。故郷の大浦地区はかなりの被害を受けましたが、こちらも力になりたいと思いますので、以前のような元気な町に戻ってほしいです。